

質問 水野（正）議員（自民・恵那市）令和7年12月12日（金）

## 2 笠松競馬場外発売所「シアター恵那」の今後について

### 答弁 知事

シアター恵那は、笠松競馬場で展開する熱戦、これを多くの競馬ファンに届けるとともに、地域のふれあいの場として、岐阜県地方競馬組合が恵那峡を望む風光明媚な地に開設した施設でございます。

開設当時の平成10年度には、馬券販売額は約26億円を計上し、年間の入場者数は約10万1千人と多くの来場者がありました。また、地元の方々にご利用いただけるよう整備しました3つの多目的ホールは、年間20件のイベントなどにご利用いただいたところでございました。

しかしながら、令和6年度には、馬券販売額は約9千万円にまで減少しており、支出の面では施設の維持管理費や人件費などの経常経費が増加傾向であることから、シアター恵那の単体の収支は、約4,100万円までに赤字が拡大しております。加えて、開設から27年が経過し、建物も老朽化しており、今後は空調設備や配管設備の更新が必要となってきております。

さらに、令和6年度の年間の入場者数は約1万2千人と、平成10年度の約10分の1にまで減少しており、施設内のレストランも今年4月に閉鎖されております。また、多目的ホールは、現在全く利用されておらず、地域のふれあいの場としての機能が薄れてきております。

こうした中、先程ご指摘いただきました、今年10月には、地元恵那市さんから県と組合に対して、「恵那峡地域や恵那市全域の活性化の拠点として、シアター恵那を是非とも活用させていただきたい。欲しい。」という要望をされたところでございます。

恵那峡周辺は、多くの人々が国内外から訪れ、また働き住んでもらえるポテンシャルの高い地域と認識しております。従いまして、シアター恵那の持つ約2万6千平方メートルのまとまった敷地を、地域の活性化の起爆剤として活用することは、県として進めているリニアを活用したまちづくりに大きな役割を果たすものと考えております。

こうしたシアター恵那の経営状況や市の要望、地域活性化の観点などを踏まえ、組合や組合の構成員である県・笠松町・岐南町との間で、今後の方向性について具体的な検討を進めるとともに、シアター恵那を廃止し敷地を恵那市へ譲渡することも視野に入れつつ、県としても組合と市との間の協議にしっかりと関わりながら、検討を進めまいります。

担当課 農政課

電話番号 058-272-8318

メール [c11411@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11411@pref.gifu.lg.jp)